

成果報告の概要

(3) 多連接坑道を考慮した湧水抑制対策技術および処分孔支保技術の整備、 緩衝材流出・侵入現象評価手法および抑制対策技術の整備

各種対策

- ㊦ 坑道やピットを施工する際の湧水抑制対策や支保技術の整備
- ㊦ 緩衝材の流出現象や岩盤への侵入現象を評価・抑制する技術の整備



500m調査坑道での
湧水状況の観察



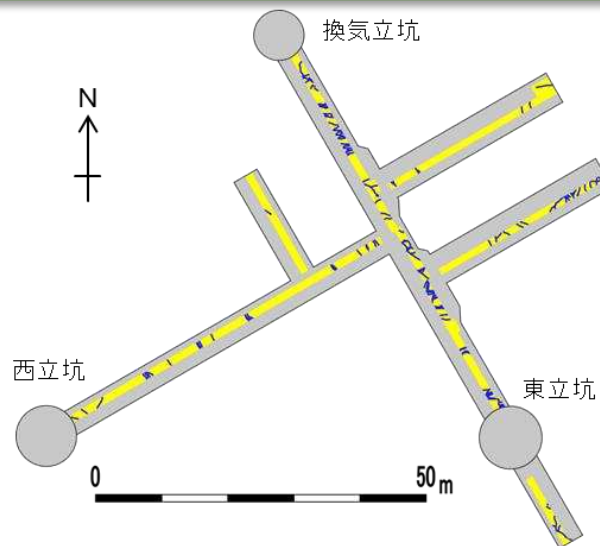
断層からの湧水の状況
(試験坑道8)

成果報告の概要

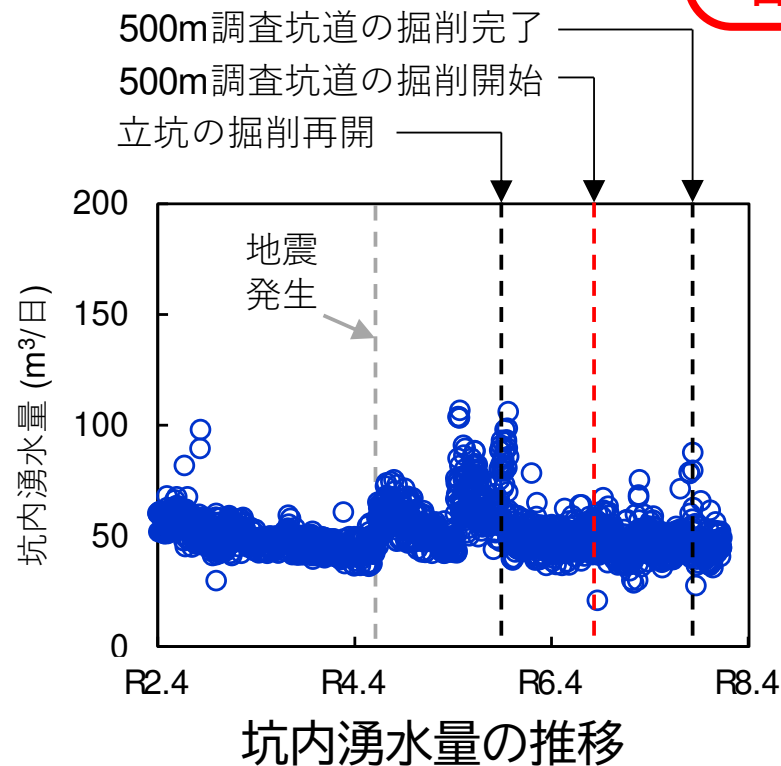
(3) 多連接坑道を考慮した湧水抑制対策技術および処分孔支保技術の整備、 緩衝材流出・侵入現象評価手法および抑制対策技術の整備

各種対策

500m調査坑道掘削時の湧水量の推移



500m調査坑道における断層分布



令和7年度の主な成果

④ 深度500 mは、地下水の通り道として機能する断層が複数存在する環境であるにも関わらず、坑内湧水量(約50 m³/日)を変化させるほどの湧水が発生しなかった。

1. 「幌延深地層研究計画 令和7年度調査研究成果報告」の概要
- 2. 地下施設 500m調査坑道の現状**
3. 令和8年度計画の進捗状況



1. 「幌延深地層研究計画 令和7年度調査研究成果報告」の概要
2. 地下施設 500m調査坑道の現状
3. 令和8年度計画の進捗状況

□ 地層処分研究開発・評価委員会、深地層の研究施設計画検討委員会を幌延深地層研究センターにて合同開催（6/15～6/16）

- 原位置試験の実施状況の確認
- 令和10年度までの成果の取りまとめに向けた議論
深度500mにおける調査研究により、350mとの地質環境や地下水挙動の違いが明らかになりつつあり、これらの成果を体系的に整理して評価につなげていくことが重要であることを確認

□ 幌延国際共同プロジェクト（HIP）の管理委員会（6/18）

- 令和8年度の研究や予算の計画について議論
全会一致で承認

□ 人工バリア性能確認試験の解体試験の実施状況の公開（6/19）

- 解体試験の様子をメディアに公開するとともに勉強会を開催
6社9名⇒全社で放映、記事掲載あり（6件、その他共同通信記事の配信：5件）